

五月飾り展

吉徳これくしょん展示室



座敷幟 九本立
吉徳製 昭和 14 年 (1939)
ニューヨークとサンフランシスコで開催された万国博覧会に出品された五月飾り一式の一部。日本をイメージさせる桜の紋が描かれている。中央の旗に描かれた鍾馗も印象的だ

毎年恒例の吉徳これくしょん展示室「五月飾り展」が3月20日(日)に始まった。今回初めて飾られたのは座敷幟九本立。座敷幟は小型の五月幟のことで、屋内に飾られる。展示されている九本立は、高さ1メートルを超え、内飾りとして屋内で飾られるものとは思えないほど立派だ。

「座敷幟の多くは単体で飾るのではなく、幟の前に武者人形や鎧兜を置き、小型の鯉のぼりや吹流

も一緒に飾られた」(学芸員)。

実際に、万国博覧会で一緒に飾られた鯉のぼりと吹流も展示されているので見ていただきたい。

他に、鎧兜や飾馬をはじめ、鍾馗や神武天皇をモデルにした武者人形、初代平田郷陽の次男である陽光が手掛けた五月人形も展示されている。端午の節句に用いられてきた五月飾りをまとめて見ることがができるのは同社展示室ならでは。5月5日(祝)まで。



金小札赤糸威具足
大正6年(1917)
典型的な京都製の飾甲冑。注目は甲冑を収納する櫃が「太鼓櫃」であること(写真下)。大正頃まで多く見られた形だ



▶▼右と下の五月人形は平田陽光(1906~1975)作。初代平田郷陽の次男であり人間国宝となった二代平田郷陽の弟



金太郎 春駒 / 平田陽光作
(昭和時代中期・20世紀)



桃太郎 凜然 / 平田陽光作
(昭和時代中期・20世紀)

吉徳これくしょん展示室

株式会社吉徳浅草橋本店 4階

5月5日(木・祝)まで

観覧時間 / 10:00 ~ 17:00

観覧料 / 無料



吉徳これくしょん展示室は浅草橋本店4階